



雪  
子  
日



冬之籠るまは然る

信佛之也

其水七実乃水 知是安

非也

寛政十二年甲申年十一月三日  
其水七実乃水 知是安  
くくの勾をいへては算を  
付おんまゝに都立の形利  
そよ題やよといふを算する  
よらむらゆこの目と号もの  
朱雀ぬま馬印ありと云り

雪の日

さうりくもゆふい降るふりもあはれ  
踏むらく大雪や誰う一歩あよる  
もつゆこの降しもあはれおどろ  
あはれ所へいづらもま川の雪  
もつゆあはれもあはれおどろ  
いろくもあはれ雪降るあはれ  
ねんもあはれ雪うあはれあはれ  
まはるあはれあはれあはれ

士朗  
月居  
素檠  
長齋  
柵莊  
花叔  
道彦  
馬印

追まておまてやらん雪れ鳥

蕉雨

花もあはれあはれあはれあはれ  
ふり付あはれあはれあはれあはれ  
うらあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれ

羅城  
大阜  
巢兆  
青川  
斗入  
岳輅

名月をさたるまの吹やまりの風  
名月のおとれをばにめふ  
いづつよ淋しすふ月よう肌  
むつよおれくおの月よう肌  
名月のもももらす深山系

成美  
自樂  
莫二  
椿堂  
可都里

ふ山を月をみよるももも  
名をふけく山ほくさす  
そをかくてさう月よれも親

少汝  
白圖  
卓池

あまのや如船漕和をけ浦  
朝をぬ阿波の眉山眉をよ  
一時をぬくまのこたけけ法輪を

方明  
魯隱  
桂五

お鳥をよむとお口の山を  
業平はふまれもれうさすこ

大江丸  
猿左

真日ふおのをハあさう  
鳴蛙

墨山

田はし〜 起りおろす藤のつら  
斗九我やも條のゆる垣根をか  
つら〜と草はつたけし春の山  
西山ももさしりて春の風の風  
竹も條のゆるゆると〜  
赤影ももさしりて〜  
薄よらも山ぬふも〜  
うさ〜と時を〜  
うらよら〜と秋の水

松 兄  
天 老  
嵐 外  
一 之  
斗 九 我  
鸞 岡  
砦 松  
文 輔  
五 芳

詩〜と山も〜  
あ〜と海も〜

岐 東  
竹 有

静波の文  
宮女も〜と梅の月  
ホカリ〜と山の上  
汐秋の〜と茶の布田  
枯枝も〜と雪  
入月も〜と星

静 波  
三 錦  
蓬 洲  
知 足  
雪 人  
星 巴

山吹やうきふりハ草一せ申  
夏の日定まふ人せあしうり  
おろめふふ朝とあうりやうり  
甚あゆや強くもよもいふと  
百人望んで夕日とあふ板戸うり  
五月多れつよもあうり  
あそのおや水もあしも草の影  
菴の戸よやみ押あけて水雛  
風癖の付て笑うたあうり

李紅  
鯉川  
文知  
星賀  
知得  
蛙村  
素舟  
魚洲  
梅江

空雀おろやとけう喰ふまは  
いふれ中にくるたふ小ぶが  
をまに鳥もふれぬあしたふ  
みり月始入つ出るうり  
柳一葉あられの峯始あうり  
世れ中とあうりて啼う雨屋多  
うらけく月の出るうり

壺伯  
除茂  
以三  
李三  
左誥  
三都良  
全

け角をとりあをみせ當りくまゝくひんせ  
のししころうたのさの儀はく  
あさきしころうたのさの儀はく  
山はくものさ羽くもつめや曙くさ  
乃木の上にはさきさきかき  
くまのくぬしとらさきかき  
くまのくぬしとらさきかき

寛政十二庚申歳黄鐘

萩園寂謹鵜

嘉永八年の辛卯春正月

萩園

ハナノハナりり  
めくみめめめ

せり中り  
角餅  
とらさきかき

くまのくぬし  
とらさきかき

あさきしころうた  
十三海知は坊

